村でも避難者を受入れ

～東北地方太平洋沖地震～

三月十一日に発生した、国内最大規模の地震「東北地方太平洋沖地震」の影響で、福島県などから避難してきた人たちの受け入れを村でも行っています。

村では、老人憩いの家むつみ荘（高瀬）・安角ふれあい自然の家（旧安角小学校）を避難所として開設。

三月二十五日現在、むつみ荘に十三人、安角ふれあい自然の家に二十五人の方が避難しています。

村では地震発生後、避難支援本部を立ち上げ、避難してくる方たちの受け入れ準備を進めてきました。

むつみ荘では、三月十七日から避難してきた人たちの受入れを開始。炊き出しは村食生活改善推進員の皆さんに協力してもらいました。

▶むつみ荘での避難生活のようす

大震災発生後から、村内のガソリンスタンドでは県外から燃料を求めてきた車で混み合い、渋滞が発生。一時は、燃料が売り切れになるなど混乱しました。（写真は上関地内のガソリンスタンドのようす）

避難者の話

福島県南相馬市から家族七人でむつみ荘へ避難してきた原順一さんは三月十一日、自宅近くにあるスーパーの駐車場にいたところ、大地震に遭いました。強い揺れが五分間ほど続き、駐車場に停めてある車は踊っているように見えました。その日は避難することで精一杯。南相馬市が大津波で大きな被害を受けたということは翌日知りました。原さんの自宅は南相馬市でも海沿いではなかったため津波の被害には遭いませんでしたが、家は屋根が崩れ落ちるなど一部損壊。

地震発生の翌十二日に発生した原発一号機の水素爆発をニュースで知り二本松市の福祉センターへ避難。しかし、原発の状況はどんどん悪化するばかり。「ガソリンが尽きるまで走ろう」と十七日、新潟へ避難を始めました。その途中、「親戚が津波に流され、遺体で発見された」と連絡が入りました。新潟へ向かっていた原さんはうしろ髪の引かれる想いでした。

むつみ荘に到着し、一週間ぶりに入浴したという原さんの表情には、ほんの少し安堵の表情が垣間見えました。原さんは今の心境をこう話しました。「原発が心配です。最悪の状況だけは、全力をあげて阻止してもらいたい。あと、早く帰りたい。」

救援物資のご協力ありがとうございました

このたび、避難所の開設にあたり、村民の皆さんから布団や衣類など、たくさんの救援物資が届きました。ご協力ありがとうございました。

今後、必要な救援物資がある場合は、広報無線などで村民の皆さんに協力を呼び掛けていきますので、よろしくお願いします。

関川村包括支援センター通信㉚

地域包括支援センター　役場庁舎内一階　☎六四―一四七三

地域包括支援センターは五年目に入りました。

地域包括支援センターは、高齢者の健康や生活全般の相談に応じ、いつまでも住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせるように、健康・医療・介護・福祉などの支援を行う「総合的なサービス拠点」です。

人とのつながり、地域とのつながりを大切にしながら業務を行っています。

《総合相談窓口》

高齢者やその家族の各種相談に応じます。必要に応じて訪問して状況を把握します。

《高齢者の権利を守ります》

高齢者の尊厳を守り、高齢者虐待の防止や消費者被害の防止に取り組みます。地域の見守り体制づくりや情報提供、専門機関への紹介も行います。

《介護予防の推進》

地域のなかで自立した生活が送れるように、本人のできることを活かしながら援助の必要な部分についての支援を行います。心身の機能の維持、向上につながる健康づくりのために介護予防を推進します。

《包括的・継続的支援》

心身の状態に変化が起こっても地域で暮らしていける環境を作るために、ケアマネージャーを支援したり、医療機関や民生委員等関係機関と連携を図り、ネットワークづくりを行います。

相談は無料で秘密は固く守られます。お気軽にご相談ください。

地域包括支援センターをご利用ください

健康講座 76

パーキンソン症候群とパーキンソン病

県立坂町病院　神経内科　新井亜希

「パーキンソン」という言葉を聞いたことがある方はたくさんおられるでしょう。では「パーキンソン症候群」と「パーキンソン病」の違いをご存じですか？一言でいうと「パーキンソン症候群の一部がパーキンソン病である」ということです。まず「パーキンソン症候群」について説明しましょう。

原因は何であれ、人間の動きを制御する錐体外路（すいたいがいろ）という神経系統に不具合が生じると、「手足がふるえる、動作がゆっくりになる、筋肉の緊張が高まり動きがこわばる、体の姿勢やバランスを制御できない」といった症状が見られるようになります。こういった症状のことをまとめて「パーキンソン症候群」と呼びます。

「パーキンソン症候群」の原因となる不具合には様々なものがあり、脳血管障害、脳腫瘍、正常圧水頭症、中毒、脳炎、薬剤の副作用、内科的疾患、神経変性疾患（神経細胞の変性によって進行性に悪化する病気の一群）などが含まれます。これらのうち、神経変性疾患の、そのまた一部が有名な「パーキンソン病」なのです。「難しい話には興味が無い」と思う方がおられるかもしれませんが、これがとても重要なことなのです。

この原稿を最初から読み直してみてください。いろいろな病気が原因で「パーキンソン症候群」という症状を生じることがあるということは、原因を見極めて、適切な治療を行えば改善するかもしれないということなのです。例えば、薬剤の副作用による「パーキンソン症候群」は、原因薬剤を中止することによって多くの場合、症状が改善します。「パーキンソン症候群」の原因になる神経変性疾患と呼ばれる病気の一部が「パーキンソン病」であるわけですが、困ったことに、多くの方が「パーキンソン」と聞いただけで「パーキンソン病」と思い込んでしまうようです。

「パーキンソン症候群」が生じた場合、まずは、それがどんな病気によって生じているのか、治療できる病気が隠れていないか、神経変性疾患によって生じているのであれば、内服治療によって症状の改善が期待できる「パーキンソン病」なのか、それ以外なのかを十分に見極めて、適切に対応することが重要です。

「パーキンソン」かも知れないと思った場合には、かかりつけ医に相談した上で専門医を受診されることをお勧めします。

＊このコーナーへのお問い合わせは、県立坂町病院へ。☎六二―三一一一